一般社団法人　筑波大学医学同窓会

桐医会会報

2023. 3. 1　No. 93

国際統合睡眠医科学研究棟　Entrance hall

目次

☆教授就任挨拶　太田深秀先生（22回生）…… 1
☆教授就任挨拶　高橋遥一郎先生（31回生）…… 3
☆ Experts from Tsukuba　～筑波大学出身のリーダー達～
原田勝利先生（５回生）…… 5
白岩伸子先生（８回生）…… 8
大西かよ子先生（22回生）……11
☆2022年度（第25回）ホームカミングデー報告　小曽根早知子先生（25回生）……13
☆ Fledglings in the Paulownia Tree　～桐で生い立つ若者たち～
「研究室演習について」Part Ⅱ ……14
☆６年間を振り返って　～Ｍ６学生役員の一言～……18
☆会員だより　金本真也先生（13回生）……20
☆通常理事会議事録……21
☆事務局より……24
☆創基151年筑波大学開学50周年記念　シンポジウムのご案内……28
☆卒業生フォローアップ調査ご協力のお願い……29

教授就任の挨拶

筑波大学　医学医療系　臨床医学域

精神医学　教授　太　田　深　秀

2022年８月１日付で筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学教授を拝命しました太田深秀と申します。この度は桐医会会報でご挨拶する機会をいただき大変光栄に存じます。

私は2001年に筑波大学医学専門学群を卒業した後，筑波大学附属病院精神神経科で臨床研修を行いました。当時の教授である朝田 隆先生に老年精神医学，特に認知症の臨床や画像検査についての指導を仰ぎ，その後は放射線医学総合研究所や国立精神・神経医療研究センターといった研究施設でMRI（magnetic resonance imaging）やPET（positron emission tomography）などの手法による，精神疾患を対象とした脳画像研究に携わってまいりました。2017年６月からは現在も診療グループ長をされている新井哲明教授のもとで，筑波大学附属病院精神神経科の一員として微力ながら精一杯取り組んで参りました。2019年４月からは前任の太刀川弘和先生（現，筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学教授）の後任として筑波大学保健管理センターに勤めており，学生のメンタルヘルスについて尽力しております。

研究としてはこれまでに統合失調症や大うつ病性障害などの精神疾患やアルツハイマー型認知症などの神経変性疾患を対象にMRIやPETを用い，中間表現型としての大脳形態に着目した研究に従事してきました。特にPET研究では，ミクログリアが活性化する際にミトコンドリア外膜に過剰発現される18kDaのトランスロケーター蛋白（TSPO: translocator protein）をターゲットとしたPETトレーサー，［11C］-PK11195や［11C］DAA1106を用い，うつ病やアルツハイマー型認知症におけるグリア細胞の働きについて検討を行いました。一方MRIでは，これまで定量困難であったArterial spin labeling（ASL）法による局所脳血流量画像の定量解析法の確立を行い，統合失調症や大うつ病性障害，強迫性障害などにおける局所脳血流量の疾患特異的な変化について明らかとしてきました。そのほか，拡散強調画像を大学院の研究テーマとして取り上げて以来，拡散MRI画像研究も継続しております。ジョンズホプキンス大学の森 進先生が考案した拡散テンソルグラフィ（脳白質３次元構築技術）に注目し，大脳の神経線維の投射をトラクトグラフィーによって描出していた20年前には６軸程の傾斜磁場を用いた拡散テンソル画像を扱っていました。しかしその後，技術の発展にあわせ拡散強調画像の傾斜磁場は6→12→16→96→128軸とどんどん増えていき，１スキャンあたりが莫大なデータ量となったころには，probabilistic mapと呼ばれるアルゴリズムを用いた正確な線維路研究が拡散MRI画像研究の主流となりました。その後は拡散テンソル画像を発展させたq-space imagingなどの非正規分布拡散画像や，拡散MRI画像を用いた大脳神経のネットワーク解析論へと拡散MRI画像研究の流行はめまぐるしく移っており，今なお進化を続けている領域です。これからも拡散MRI画像研究はライフワークとして継続していきたいと考えております。

現在勤務させていただいている保健管理センターは，昭和48年10月の筑波大学の開学にあわせて設置されました。開学当初は学生相談の対応とともに内科，精神科，整形外科および歯科が開設され，平成14年10月の図書館情報大学との統合に伴い同大学体育・保健センターの保健部門との組

織及び業務の統合が行われました。前任の太刀川弘和所長および坂本 透所長らの時期には，平成28年に経営の改善，時代にあわせた診療体制の検討，学生相談のあり方を含めたメンタルヘルスのニーズへの対応能力の向上，職員健康管理に関する連携体制の強化などの提案がなされ，平成29年６月には診療の有償化，健診・救護に関わる業務の効率化，学生相談・メンタルヘルス対策の充実に関わる体制・環境の見直しおよび管理・運営体制の見直しなどの改革が提言されました。平成30年４月には，センター組織をフィジカルヘルス部門とメンタルヘルス部門に分割，平成31年１月からは診療料金等の有償化が開始されるなど，時代にあわせた学生・職員の健康管理サービスの提供を目指しております。平成30年度版自殺対策白書によれば，先進国では日本のみが15 ～ 34歳の若い世代で死因の第１位が自殺となっており，自殺率も非常に高いことが報告されています。特に大学生は居住環境や交友関係の変化や，就職活動など将来に関わる重要な選択を求められるなど，精神的な負担が生じやすい時期です。今後は大学生らのメンタルヘルスの維持向上を推進すべく，僭越ながら頑張りたいと思います。

以上簡単ではございますが桐医会の先生方へのご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導，ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

教授就任の挨拶

筑波大学　医学医療系　生命医科学域

法医学　教授　高　橋　遥一郎

2022年（令和４年）６月１日付で筑波大学医学医療系生命医科学域法医学教授を拝命いたしました，高橋遥一郎と申します。この度は，桐医会会報でのご挨拶の機会を頂戴しまして，大変光栄に存じます。この場をお借りし，私の大学入学から現在に至るまでの経緯と今後の抱負について，述べさせていただきたいと思います。

私は本学医学類の第31回生です。在学中に前教授であります本田克也先生の法医学講義を受講し，それまではその存在を何となく認識しているという程度の「法医学」について，医と法の接点から人と社会を包括的に観察し判断する学問であり，一生を捧げる価値があるものとの認識を得ました。卒業後は土浦協同病院で２年間の初期臨床研修を行いましたが，修了後の進路を考えるにあたり，学生の頃から興味を抱いていた法医学についてもう一度真剣に考えました。実は筑波大学初代法医学教授であります三澤章吾先生の門下からは多数の法医学者が輩出されており，上述の本田先生をはじめ，当時で実に５名以上の法医学教授が筑波大学の卒業生でした。全国の法医学医師数が200名弱しかいないことを考えますと，筑波大学は我が国の法医学において中心的な位置を占めていたと言えます。私は多くの筑波大学出身の先輩方に進路のご相談を差し上げ，最終的に群馬大学法医学の小湊慶彦先生（現在は医学部長を務めておられます）の下で法医学の修練を積ませていただけることとなりました。

群馬大学法医学は，設立当初から現在に至るまで研究活動が非常に盛んな研究室で，初代教授の井関尚栄先生は二度の学士院賞を受賞し，ノーベル医学生理学賞にもノミネートされる等，輝かしい業績を修めておられます。私が大学院に進学した頃の群馬大学法医学では，ABO 遺伝子の転写調節に関する新規の発見が報告され，ABO 研究の新たな鉱脈が掘り当てられた時期でした。私も運よくこの研究に参加することが出来，その一環として血液型亜型 A_m 型等の原因を発見することが出来ました。これら一連の研究の結果，従来不可能であった血液型亜型の遺伝子診断が可能となり，その技術は日本赤十字社で業務実装されるに至っています。Vox Sanguinis Best Paper Prize を受賞できた他，輸血学の成書に載るような研究結果を出せたことを大変幸せに思っています。

基礎研究を継続する傍ら，研究で得られた知識・技術を法医解剖実務に応用したところ，分子生物学的な解析手法が形態異常を指摘し難い病態の死後診断に有用であることを経験してきました。その発展性を探り，2017年には Johns Hopkins University Medical Campus に位置する Lieber Institute for Brain Development に日本学術振興会の海外特別研究員として派遣され，精神疾患の死後診断を最終目標として，ヒト死後脳における統合失調症関連遺伝子の発現様態について研究を行いました。多数のヒト死後脳サンプルを用いて，統合失調症関連遺伝子の発現分布を一細胞・一分子レベルで解析し，疾患発症機序の一端を解明することに繋がりました。ところで，近年の臨床診療では遺伝子検査がますます身近になっていますが，近い将来に死因究明（死後診断）においても遺伝子検査がより頻繁に施行されることになると予測しています。そこで帰国後は現在に至るまで，これまでの私の経験を総合的に生かせるような「法医分子診断」の開発を一つの目標と

して，研究・実務を継続しております。

筑波大学に着任後は，上述の研究・実務に加えて，教育活動への取り組みに一層の力を入れています。我が国では，少子高齢化を主とした様々な社会構造の変化により，医療者が異状死体を診る機会が確実に増加していきますので，一定以上の技能を持って法医学的諸問題に対応できる人材を増員することが急務となっています。法医学専門家の絶対数が不足している我が国では，学群生や大学院生への教育に加えて，法医学的諸問題に高い水準で対応できる医療者や捜査・司法関係者を増やすための充実した卒後教育が必要です。そこで今後は症例検討会や講習会等を通じた実践的教育を積極的に行い，法医学的知識・技術の確認や学習の場を提供し，地域社会の平均的な法医学技能の維持と底上げに注力します。法医学教育は研究や実務と不可分であり，これらが三位一体になることで相乗的な質の向上が成されることを経験しています。研究や実務も含めた法医学の意義と魅力を伝え，医学の発展と公衆衛生の向上に寄与できる法医学教育に取り組みたいと思います。

さらに，筑波大学や筑波研究学園都市の強みを生かして，応用医学としての法医学の発展に向けた学際的な取り組みも重視します。法医学は，現代社会の根幹をなす法律の適正な運用が図られるよう，医学的な側面から大きく支えている学問です。歴史的には，自然科学に基づき研究開発されてきた方法や技術を犯罪や事故の医学的な解明及び防止，そして適正な裁判のために応用することが法医学の役目でした。近年では，2021年に発表された死因究明等推進計画が示す通り，正確な死因究明に基づく公衆衛生の向上や医学の発展も法医学の目的とされるようになりました。内包される学術領域が多岐にわたるため，応用医学としての法医学の発展には他分野との連携・協力が必須です。私は筑波大学着任翌日に筑波メディカルセンター病院剖検センター長の早川秀幸先生の元を訪れ，筑波大学とメディカルセンター間での死後CT検査の連携についてご相談を差し上げ，昨年10月１日から法医解剖の全例で死後CT検査が可能となりました。また，つくば市にある国立科学博物館の人類研究部人類史研究グループ長の坂上和弘先生の元に伺い，法医実務に重要な個人識別や物体鑑定に関して業務提携を行えることとなりました。このように，多くの方々との連携を行いつつ，死因究明を通じて地域・社会への貢献を果たしていきたいと思います。

我が国の死因究明等推進基本法では，死因究明等に関する研究を積極的に行い，得られた知見を公衆衛生の向上や増進に活用するよう記されています。今後も同法の理念に則り，法医実務の改善による社会貢献を一つの到達点としつつ，筑波大学に相応しい世界をリードする法医学研究を行い，法医学を発信源として医科学全体の発展に与したいと思います。皆様のご指導･ご鞭撻の程を，何卒よろしくお願い申し上げます。

Experts from Tsukuba

～筑波大学出身のリーダー達～

「道は，まだ続く」

茨城県立あすなろの郷病院

病院長　原　田　勝　利

このたびは推薦により Experts from Tsukuba に寄稿できることとなり，嬉しくもあり戸惑ってもいます。自分の来歴を振り返ってみると，研修医終了後は大きく３つの道に進んでいますが，それぞれで，特に優れた業績を残しているというわけでもありません。３回も変えたというその数もありますが，現在の道が少々めずらしいのでお話がきたのだと思います。それぞれでの思い，きっかけなど軽い気持ちで読んでいただけたら幸いです。

第１の道　神経内科専門医

学生時代は神経系に興味があったかというとそうでもありませんでした。むしろ苦手で，M4の時には神経系で再試験を受けています。しかし，M5の病院実習で最初に回ったのが脳神経外科で，この時，神経系は面白そうだと思ったのが一番のきっかけです。研修医時代は，特に金澤一郎先生（当時，神経内科助教授から教授）には厳しく指導していただきましたが，不肖な医局員であったと思います。研修医終了後は医局人事により，総合守谷第一病院で２年間，茨城県立中央病院で13年間勤務しました。その間，県立医療大学神経内科永田博司教授のもとで末梢神経における酸化ストレスの研究をさせていただき，学位を取得することができました。県立中央病院は基幹病院ですが，神経内科専門医は自分ひとりでした。そのため，内科系における神経疾患に関してはほぼひとりで判断しなくてはならず，荷が重いと感じることも少なくありませんでした。また，同じような診療の繰り返しで行き詰まりも感じ，悩むようになっていました。神経内科専門医での「Experts from Tsukuba」というのであれば同級生の村田美穂先生の方が相応しいでしょう。村田先生はパーキンソン病におけるゾニサミドの効果を世界に先駆けて発見し，現在，治療薬として使用されています。残念ながらご病気でお亡くなりになり，多くの同級生と悲しみに暮れたことを思い出します。

第２の道　医療系私立大学教員

県立中央病院で悩んでいたところ，ひょんなところから目白大学で医療系の学部が新設され医師を教員として探しているという話を聞き，転職することにしました。当時の神経内科玉岡 晃教授に報告し了解を得ましたが，医局人事ではなかったので，これでもう基幹病院での臨床は難しいだろうなと思いました。目白大学は新宿に文系キャ

ンパスがある私立大学ですが，岩槻市に保健医療関係学部が新設されました。そこでは看護学部に所属し，学生相手に座学の授業（内科学，神経内科学，老年医学など）を行っていました。付属病院はありませんでしたが，週に一度，外勤で神経内科専門医として臨床は続けていました。時間的には余裕がありましたが，何となく物足りなさもありました。それでも，４年経ち卒業生が現れ，卒業式や国家試験発表後の生徒の喜ぶ顔を見るにつけ，教えることの充実を味わうことができました。また，看護教員の方々の看護学への熱い思いに触れることもでき，このまま教員で終わるのも悪くはないかなと思い始めました。結局６年間勤務しました。

第３の道　重症心身障害児者施設

医局人事からは離れていましたが，玉岡教授より県立あすなろの郷病院で医師を病院長として探しているから臨床に戻ってきてはどうかとのお話がありました。県立中央病院の比較的近くにあるので名前は聞いたことがありましたが詳しいことは知りませんでした。ホームページを閲覧し，あすなろの郷病院は重症心身障害児者のための療養施設であることがわかりましたが戸惑いました。重症心身障害児は主に小児科の先生が担当されることが多いかと思います。しかし，自分は重症心身障害について何も知らず，患者さんを診たことがありません。また，小児科に関するトレーニングを正式に受けたこともありません（現在の研修医制度とは違う）。一方，病院の管理職についても経験がなく，急に病院長が務まるのかどうかもわかりません。ただ，県の担当者などの話では，施設で診療の対象となる方は成人が多く，また，てんかんを併発している方も多いので，神経内科専門医で良いとのことでした。ちなみに，前任の病院長は元筑波大学脳神経外科伴野悠士先生です。いろいろ悩みましたが，臨床に戻り新たなことを経験できる良い機会かと考え，お引き受けすることにしました。

県立あすなろの郷病院は，障害者支援施設県立あすなろの郷に併設されています。あすなろの郷には重度知的障害のある方（利用者）が入所されていて，水戸市のはずれにある広大な敷地内に点在する寮で生活支援を受けています。400名以上が入所し，それぞれの寮には花の名前（ぼたん寮，さつき寮など）がついています。病院も同一敷地内にあることから病棟のことを「ばら寮」と呼んでおり，定員は40床です。あすなろの郷利用者（外来として対応）およびばら寮入院患者の健康管理・診療が主な業務です。

まず，あすなろの郷利用者の診療について紹介します。当初はかなり困惑しました。知的障害のため，どこが痛いのか，いつからどんな症状があるのかわからないことも稀ではありません。例えば，食事を食べたがらないとのことで受診してくることがあります。単なる便秘のことも，イレウス，胆道系結石または急性虫垂炎などの急性・重症疾患が紛れ込んでいることもありました。処置では傷を縫合しても自己抜糸してしまう，ガーゼを当てても取ってしまう，異食がありガーゼを当てることさえ難しい場合もありました。そのような経験を重ねる中で，知的障害のある方の診療のコツというものが少しずつ身についてきている気がします。

次に，ばら寮について紹介します。重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態を重症心身障害，その状態にある子どもを重症心身障害児，成人した重症心身障害児を含めて重症心身障害児者（重症児者）と呼んでいます。重症児者施設は県内に当施設を含め５施設あります。しかし，水戸より南にはないので，県南地域に住んでいるとあまり話を聞かないかもしれません。

現在，ばら寮には児は１人で，ほとんどが成人で高齢者も入院しています。気管切開，胃瘻造設されている方が少なくありません。ほとんどの方がほぼ全介助の状態です。有意な発語がみられない方が多く，お話できてもごく簡単な内容に限られています。四肢体幹の拘縮・変形などが著しい方も少なくありません。骨が脆く，わずかの外力で骨折してしまうこともあります。また，ちょっとしたきっかけであっても大きく体調を崩してしまうことがあります。そのため，細やかな配慮

と，小さな変化も見逃さない観察・診察が重要です。一方，重症児者施設は，安寧な療養を提供するだけではなく，日常生活の場という一面があり，また，療育（発達支援）や機能維持改善も心掛けなければいけません。そのため，日々，楽しみながらの運動，リラクゼーションおよびレクリエーションなどを，季節ごとにはイベント（お祭り，七夕，クリスマスなど），日帰り旅行（現在はCOVIDのため中止中）などを行っています。

最後に

ばら寮に入院されている方の表情，しぐさをみていると，皆，とても豊かで個性に富んでいます。決して，何の反応もなく寝たきりでいるわけではありません。接していて心が癒されることの方が多く，いろいろと良い経験をさせていただいています。一方，津久井やまゆり園殺傷事件という非常に痛ましい出来事がありました。犯人は動機について「意思疎通のとれない障害者は安楽死させるべきだ」「重度・重複障害者を養うには莫大なお金と時間が奪われる」などの自説を展開しました。その身勝手でおぞましい考えは100％誤っており，ここでも強く非難したいと思います。

重症児が小さいうちはご両親などが介護されることが多いのですが，ある程度の年齢になりご両親も高齢になられると施設入院を希望されることが多いようです。しかし，一旦，入院されると，どうしても一般社会から隔絶される傾向となってしまいます。施設内だけでのお楽しみ，療養などを提供するだけで良いのか，もっと社会と繋がり，情報を発信することが必要なのではないかと考えることがあります。しかし，体調を崩されるようなリスクは取れない，興味本位でみられるようなことがあってはならない，個人情報保護の問題，ご本人の希望や同意が得られないなど難しい面もあります。重症児者施設としての望ましい在り方を探す道は，まだ続いています。今回，同窓会会報を通じ，重症児者に関する認識が少しでも広がれば嬉しいです。

＜連絡先＞
茨城県立あすなろの郷病院　原田勝利
TEL: 029-259-3125
E-mail: harada.k@ibaraki-asunaro.jp

『「日々是好日」を目指して』

筑波技術大学　保健科学部保健学科 鍼灸学専攻
教授　白　岩　伸　子

みなさん，こんにちは。8回生の白岩伸子です。このたびは，原稿依頼誠にありがとうございます。とてもExpertなどではないのですが，僭越ながらこれまでの来歴と現在の仕事について少々書かせていただきます。

これまでの来歴

私は，1987年に筑波大学医学専門学群（8回生）を卒業し，卒後筑波大学附属病院神経内科コースの研修を始めました。神経内科を選択したのは，まず出身高校（都立立川高校）の先輩である，吉沢和朗先生に学生の頃勧められたのがきっかけでした。

入局した当時は，初代の中西孝雄教授をはじめ，金澤一郎先生，水澤英洋先生，永田博司先生といった錚々たる諸先生方にご指導いただき，厳しいことは大変厳しいのですが，神経内科医としては非常に恵まれた贅沢な研修であったと思います。その際の最初の指導医が大越教夫先生（1回生），吉沢和朗先生（3回生）など先輩方で，問診，神経学的所見がいかに大切であり，そこから積み上げていくこと，鑑別診断のためには広く知識を持たなければならないこと等大切なことを一から教えていただきました。またそれらの所見から推論し部位診断まで至る，神経内科ならではの診断の面白さに魅了されたのを憶えています。

その後，東京都老人医療センター（現 東京都健康長寿医療センター）神経内科で研修致しました。ここでは，山之内 博先生，葛原茂樹先生が東西2病棟の医長をなさっており，さらに神経内科診療について非常に多くを学びました。豊倉康夫先生の総回診もあり，緊張感あふれる研修でした。また研修中の平成元年に同級生と結婚しました。

卒後4年目に大学院に進学し，自治医大生化学教室で太田成男先生に師事し，ミトコンドリア脳筋症やアポトーシス関連遺伝子などの研究で博士過程を修了しました。大学院在学中に初めての子供を出産し子育ても始まりました。卒業後は牛久愛和総合病院で勤務，関連病院の救急病院での初めての一人医長で，大変ながらも河野 豊先生（16回生）など後輩にも恵まれ充実した日々でした。その間に二人目の子供を出産しました。

ただ大学院の続きをとの思いが強く，診療の傍ら当時は筑波大学基礎医学系におられた岡野栄之先生と八木沼洋行先生に研究生としてお世話になり，細胞死の研究も継続し，そのご縁から神経細胞死の研究のため1998年から2年間アメリカのWake Forest University, Dept. of Neurobiology and Anatomy, Oppenheim教授の研究室に留学致しました。2000年に帰国後は，筑波記念病院に勤務，以後15年間勤務致しました。

神経内科医を長年しますと，高齢化社会が進むにつれて，脳卒中，てんかん，パーキンソン病等，ニーズの増加に対して茨城県内の神経内科専門医があまりにも少ない実情を感じ，私自身2人のまだ幼い子供たちを抱えて，あやうい綱渡りのような毎日だったことが思い出されます。一人医長ではオンコール体制にも限界があり，長澤俊郎病院長にお願いし血液内科グループに入れていただくような状況でした。

また病院勤務の一方，家庭，子育てもあり忙しい毎日の中，何とかできる範囲でと思い，臨床研究を少しずつですが継続しました。というのも学

会に果たして参加できるか出来ないかも見えない中で，神経学会専門医を何とか維持する為には年１回の総会に演題を出せば何とか単位が足りる！というのが実はその頃のモチベーションでした。筑波大学神経内科の玉岡 晃教授には，ご多忙の中神経学会の演題や論文をご指導いただきまして感謝申し上げたいと思います。

筑波技術大学　保健科学部に赴任して

大越教夫先生が筑波技術大学学長にご就任されたのを機に保健科学部の公募があり，2015年５月より，筑波技術大学保健科学部准教授に採用いただきました。筑波技術大学は，視覚障害および聴覚障害学生の教育を行っている，実は日本で唯一の国立大学です。保健科学部のある春日キャンパスでは，視覚障害の学生が学んでおり，私の所属する鍼灸学専攻では鍼灸・あん摩マッサージ指圧師（あはき師）の国家試験免許取得に向けた学生教育が行われています。

私は臨床医学や病理学の授業を担当する他，附属の東西医学統合医療センターで神経内科の診療も行っております。統合医療センターでは，鍼灸部門，リハビリテーション部門があり，医療部門と手を携えて患者さんの診療にあたっており，鍼灸部門の研修生や鍼灸専攻の院生への教育に関わることもあります。

私は，それまで関連病院での神経内科の診療を長年やってきましたので，大学での業務は初めてでした。しかも視覚障害学生への対応で，また一からの学びとなりましたが，教育，診療，研究共にできるということが今までなかったこともあり、とても新鮮に感じました。

＜教育について＞

例年，卒業試験対策，あはき師国家試験への指導を行っております。その際，本学の鮎澤 聡先生（７回生）を中心に，視覚に障害を持つ学生に向けて開発された検索機能のあるタブレット学習ツールの応用も試みております。

あはき師国家試験では，非常に広範囲な科目対策が必要であり，近年飛躍的に増加していく医療系の知識を身につけていくのはなかなか大変なことです。また学生一人ひとりは，様々な見え方の障害を持っています。個々の学生の持つ問題点を認識し，共に解決していく地道な努力が必要ですが，アクティブラーニングは，そのひとつの解決方法となる可能性が高いと感じており，鮎澤先生とご一緒に，筑波大学医学卒前教育におけるアクティブラーニングの実際について，授業見学，講習会への参加をさせていただき，現在では本学での臨床医学の授業でも取り入れつつあります。

本学では，グローバル教育にも力を入れており，長年様々な海外研修を行ってきました。私も本学鍼灸学専攻学生とオーストラリアの中医学（鍼灸，漢方医学）の４年制大学との交流を通して，海外でも広く中医学が行われていることを学生と共に体験することができました。現在はコロナ禍で縮小せざるをえない状況なのが残念です。

＜研究について＞

赴任以来，大越先生にご指導を仰ぎ，少しずつではありますが，統合医療センターの症例を中心とした臨床研究や，科研費研究として，視覚障害学生へ向けてより使いやすい音声を加えた新規図表教材の開発研究などを進めております。また厚労省のスモンに関する調査研究班の一翼を担い，茨城県での業務を担当しています。

＜学内業務について＞

昨年４月に，保健科学部教授を拝命致しましてからは，学生宿舎の主任，春日キャンパスの保健管理センター管理者も拝命致しまして，コロナ禍での学生生活を健康面で支える業務も加わっています。

これからのことと家族への感謝

今後の抱負ですが，折角，教育，診療，研究を共にできる環境をいただいたことに感謝して，できるだけのことはやっていきたいと感じております。神経内科の臨床現場では，なかなか時間がとれず，論文にまとめるような余裕がとれなかったことを思えば，現在の立場は大変ありがたく感じ

ます。臨床現場から大学職へと舵を切るにあたっては，正直にいうと心得もなく，とまどうことも多く，そんな時，夫（白岩浩志，８回生）が，背中を押してくれました。感謝しています。それから，子育てというのも人生において大仕事でした。自分としてはできる限りやってきたつもりではありますが，一方で，このように自分の仕事にも突っ走ってきた分，我が家の子供たち（いつの間にかもう社会人になってしまいましたが）に申し訳なく思うことも多々あり，成長してくれてありがとう！という気持ちです。私の実家や夫の両親も含めて家族皆に支えてもらったことに感謝しかありません。

これからの生き方のこと，同窓生の皆様へ

今までは，ずっと走り続けたあげく疲弊して，もう走れないとさすがに足が止まることもあり，山あり谷ありでした。もう少し自ら楽しみながらやればよかったのかも，と今更ながら思います。これからは，日々あたふたと大変だ，忙しいとのみ慌ただしく生きるのではなくて，日々の出来事を一つひとつもっと丁寧に味わって生きることが大切なのでは，と還暦を迎えた今やっと気づき始めました。樹木希林さんの映画に「日々是好日」というのがありましたが，目指すところを一言にするならこういう言葉になるのかなと思い，タイトルとして挙げさせていただきました。みなさん，今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

＜連絡先＞
筑波技術大学保健科学部　白岩　伸子
〒305-8521 茨城県つくば市春日4-12-7
TEL: 029-852-2890（代表）
TEL&FAX: 029-858-9538
E-mail: nshiraiwa@k.tsukuba-tech.ac.jp

「一意専心：放射線腫瘍医として」

国際医療福祉大学医学部　放射線医学

教授　大　西　かよ子

桐医会のみなさま，こんにちは。22 回生の大西かよ子と申します。この度，松村 明先生にお声がけいただき，このような機会を頂戴しました。僭越ですが，後輩のみなさまの参考になれば嬉しく，これまでの経験を中心に書かせていただきます。

学生時代

私は，つくば生まれ，土浦第一高等学校出身で，1995 年に筑波大学医学専門学群に入学しました。女子ハンドボール部に所属し，4 年生まではハンドボール漬けの毎日でした。入部初日にウォーミングアップの段階で酸欠となり倒れるなど，練習がとにかくきつくて楽しむどころではありませんでしたが，最終学年の 4 年生でなんとか試合に出場できるようになり，春・秋の関東リーグ戦，東日本インカレ，全日本インカレすべてで優勝も達成し，ハンドボールをやりきりました。私以外の部員は体育専門学群でしたので，スポーツでトップを目指す人達のまた別の世界を垣間みることができたのも，よい経験でした。入学後，学生生活にあまりなじめなかったことがハンドボール部に入部したきっかけではありましたが，東京師範学校からの歴史を汲む筑波大学ならではの時間を過ごさせていただいたと思います。医学専門学群も，無事に卒業までこぎつけました。毎日ジャージで講義を受ける私を温かく見守ってくれた 22 回生のみなさま，特に国試対策班で一緒に勉強した医学女子バスケ部・バレー部のみんな，本当にありがとう！

レジデントから大学院まで

2001 年に卒業後は，放射線腫瘍科に入局しました。クリニカルクラークシップで，放射線腫瘍医の存在をはじめて知り，放射線治療で骨転移の痛みが緩和されるということに魅了されたのが入局を決めた理由です。2001 年は，病院併設型の“新”陽子線医学利用研究センターで陽子線治療が開始された年でもあり，臨床試験 1 例目の担当医として関わらせていただいたことも印象深く記憶しております。1・2 年目は，筑波大学附属病院のほか，災害医療センター（救急救命科），筑波記念病院（外科・麻酔科・小児科）で過ごし，3 年目から本格的に放射線腫瘍医の研修を開始しました。筑波大学附属病院で 2 年，国立国際医療センターで 1 年の研修後，6 年目にテキサス大学 MD Anderson Cancer Center に留学しました。MD Anderson Cancer Center では，当時でも 50 名を超える放射線腫瘍医が在籍し，リニアックを約 30 台有するなど，日本とは桁違いに大規模でシステマチックな放射線治療に驚愕した一方で，日本の精密で細やかな放射線治療の凄さを実感することにもなりました。帰国後は，筑波大学で指導を受けた塩山善之先生（現 九州国際重粒子線がんセンター長）とのご縁で，九州大学臨床放射線科学教室の大学院に進学しました。臨床大学院生として九州大学病院で診療に従事しながら研究をすすめるとともに，筑波大学とはまた異なる重厚な医局を堪能しました。留学期間を除くと，殆どの時間を病院で過ごしていたのは今から思うと惜しい気もしますが，充実した研修生活であり，いろいろな環境で幅広く放射線治療を勉強できたことが私の基礎になっております。その後，国立

国際医療研究センター病院で働いていたところ，放射線腫瘍学教授である櫻井英幸先生にお声がけいただき，2013年から筑波大学で働く機会を得ました。

ふたたび筑波大学で

８年ぶりの放射線腫瘍科は，櫻井教授のもと様変わりしておりました。症例数が増え，スタッフ・レジデントが増え，科内や各診療科とのカンファレンスや勉強会が活発に行われておりました。特に毎朝約１時間をかけて行われるカンファレンスは，医師のほか診療放射線技師・看護師も参加し，新患全ての治療方針が検討され，治療計画がCT全スライスの線量分布をみたうえで承認されるという，非常に丁寧かつ教育的なもので大変勉強になりました。診療は，頭頸部がん，肺がんを中心に行いました。頭頸部がんの治療では，優秀な診療放射線技師・医学物理士さん達と一緒に，強度変調放射線治療を開始することができました。2018年には頭頸部悪性腫瘍に対する陽子線治療が保険診療として承認され，診療の幅が更に広がりました。肺がんの治療では，エックス線で治療困難と判断される方の陽子線治療に，注力しました。エックス線と陽子線が使える贅沢な環境で，臨床のエフォートを高くしすぎたのは反省点でしたが，陽子線治療の保険適応拡大を目指すなか，Ⅰ期非小細胞肺癌に対する陽子線治療の多施設遡及的研究の事務局として，日本の貴重なデータをまとめることができました。

それにしましても，母校で働くのは，何ともいえぬ安心感がありました。先輩がいて，同期がいて，後輩もできました。診療科の垣根も低く，特に耳鼻咽喉科，歯科口腔外科，呼吸器内科，呼吸器外科，腫瘍内科の先生方には大変お世話になりました。

国際医療福祉大学へ

2020年４月より在籍している国際医療福祉大学医学部放射線医学教室には，14回生で当学の腎泌尿器外科学主任教授である宮﨑 淳先生にお声がけいただきました。教授として着任しましたが，放射線腫瘍医は私一人のみの，非常に厳しいスタートとなりました。まずは，2020年３月に開院した大学病院としての機能を担う国際医療福祉大学成田病院放射線治療科の診療を立ちあげました。勤務初日に，何も置かれていない治療計画室で，原子力規制委員会からの施設使用許可が下りていないため，設置されている２台の放射線治療装置からビームがだせないと聞いた時は気が遠くなりましたが，やる気に満ちた医学物理士・診療放射線技師さん達の協力を得て，なんとか他診療科からの依頼に間に合わせることができました。初めての仕事が多いなか，人手不足も相まってともすれば心が折れがちですが，この稀有な経験を楽しむようにしています。２年目からは，当院で医学部５年生のクリニカルクラークシップが始まりました。３年目のこの夏からは，放射線科専攻医の治療の研修が始まり，秋からは東京大学の竹中亮介先生がスタッフに加わってくださり，だいぶ賑やかになりました。今年度は，当学医学部の１期生が卒業します。牛の歩みではありますが，働きやすい環境を整えつつ，臨床・研究にこれからも励んでいきたいと考えております。そして，まだまだ少ない放射線腫瘍医の育成に，微力ながらお役にたてるよう努めていきます。

とりとめのない内容となってしまいました。最後になりますが，これまでご指導いただいた全ての先生に，この場をお借りして深く感謝申し上げます。

令和４年度（第25回）筑波大学
ホームカミングデー報告

令和４年11月５日

2022年11月５日（土）に，筑波大学第25回ホームカミングデーが開催されました。ホームカミングデーは，卒業生・修了生と教職員の交流を深め大学の発展に資する目的で，卒後20年（医学類は卒後18年）の卒業生・修了生を主な対象者として開催されます。過去２年間は新型コロナウイルス感染症流行のためオンライン開催でしたが，今年度は初めて，対面とオンラインのハイブリッド方式で開催され，対象者も過去２年間の現地開催ができなかった卒後22年までに拡大されました。

当日は，ちょうど学園祭が行われている中，中央体育館にて多くの卒業生・修了生とそのご家族，教職員の方々が集まりました。会場では様々な企画が上映されましたが，メッセージやインタビューに登場する方々（江崎玲於奈先生からサッカーの三苫 薫選手まで）を見て，筑波大学はやはりすごい大学なんだなと再認識しました。当日の会場の様子やオンライン企画の動画は，第25回ホームカミングデーのホームページ（https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/）で公開されてるので，ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思います。

医学類からの参加者は少なかったですが，久々に同級生とゆっくり話をする時間を過ごせました。同級生として，互いに卒業してから同じだけの時間の中で，似たようなライフイベントを経験しながら過ごしてきたのだなと感じました。普段だったらなかなかゆっくりお話を伺うことができない教職員の先生方と交流できたことも，大変貴重な機会となりました。また，今回を機に久々に連絡を取り合った同級生も多く，ライブ配信を視聴してくれた方も多かったようです。この方々にとっても，遠方からでも筑波大学や学生時代のことに思いを馳せる時間になっていたら嬉しいと思います。

筑波大学は，私が大学生だったころの面影も多く残る一方で，大学もつくば市も，当時とはだいぶ変化した部分も多くなりました。今回参加できなかった卒業生の方々も，何かの折にはぜひ大学を訪れてみていただきたいです。また今回に限らず，同期生で集まる機会があったら嬉しいです。今回は，対象となる卒業生全体の半分程度にしか直接連絡を取れなかったこと，また連絡するタイミングが遅くなってしまったことが残念で申し訳ないと感じています。来年は開学50周年を迎える記念の年でもあり，来年のホームカミングデーでは，対象となる学年の卒業生・修了生のより多くの方に情報が届き，多くの皆さんに参加してもらえることを願っています。

（25回生　小曽根早知子　記）

＜学生企画＞

Fledglings in the Paulownia Tree
～桐で生い立つ若者たち～

「研究室演習について」Part Ⅱ

前号に引き続き会報の学生企画を担当いたします，医学類５年の河本万優子と螺良美波です。
前号の学生企画でもご紹介いたしましたが，筑波大学医学類には現在，「研究室演習」という制度，および単位があります。これは研究を志している学生，研究をやってみたいという学生が関心のある研究分野の研究室に所属するためのものです。この制度が始まって以来，研究室に所属する学生は年々増えております。今号でも，忙しい学生生活を送りながら情熱的に研究活動を行っている学群生のお２人を紹介いたします。

果てしない世界との対面

医学類６年　佐藤　恵

皆様，はじめまして。医学類６年の佐藤 恵と申します。学類２年次から分子細胞生物学研究室に所属し，研究活動を行っております。この度お声がけいただきまして，僭越ながら私の研究活動についてご紹介させていただきます。

【研究を志したきっかけ】

私がサイエンスへの夢を抱いたのは中学生の時になります。生物の授業で遺伝子の単元が始まった日のことを昨日のことにように思い出します。DNAによって遺伝情報が担われ，それが自分の体の設計図なのだと知った時，生命の果てしない神秘を感じ，世界が変わったような気がいたしました。そして，DNAが遺伝子の本体であること，DNAの構造，DNAの複製方法を証明した先人たちの実験方法を学んだ際，こんなに美しい実験があるだろうか，と涙が出るほど感動いたしました。この授業を受けた時，遺伝子に関わる研究をしたいという漠然とした夢を抱きました。その後，遺伝子の異常によって起こる疾患があると学び，将来は遺伝子の発現制御機構，そしてその破綻による疾患の研究を行いたいと強く思うようになりました。

【分子細胞生物学研究室との出会い】

「研究学園都市」の名の通り，大学を中心とした都市で多くの研究所が集まり，研究に専念できるつくば市の環境に一目で惚れ込み，筑波大学の受験を決めました。入学後は基礎医学の各研究室の先生方からの授業を受けながら，どのような研究を行いたいのか非常に悩みました。細胞内での遺伝子発現制御機構に最も興味があったこと，そして各人がそれぞれプロジェクトを遂行し，主体的に研究能力の研鑽を行えるということから，分子細胞生物学研究室で入江賢児教授のご指導のもと研究活動をはじめました。医学類２年次から５年次までは研究室演習のコースで放課後や休日，長期休暇を利用して研究を行い，６年次には新医学専攻に進み，幸せなことに半年間１日中実験をする機会をいただき，現在（2022年12月）も国家試験，卒業試験の勉強と並行して細々と研究を続けております。何もできないところから自分でプロジェクトを進められるまで育てていただきました。実

験操作の楽しさに夢中になるうち，試行錯誤して真理を追究する面白さを体感するようになり，非常に楽しく充実した研究生活を送っております。

【研究内容について】

分子細胞生物学研究室では，出芽酵母を用いて遺伝子の転写後制御機構，すなわちRNA制御について研究を行っております。そのなかでも私は酵母からヒトまで進化的に保存されているPuf（Pumilio and FBF）ファミリーのRNA結合タンパク質の生理学的に重要な機能の探索に焦点をあてています。出芽酵母は遺伝子操作性に優れており，世代時間が短く比較的短時間で実験が可能であることから，授業や病棟実習と両立しつつ多くの実験を行うことができました。そのなかで遺伝学・分子生物学・細胞生物学的手法を習得し，RNA結合タンパク質Puf5の細胞周期の進行制御における機能探索で成果をあげ，論文として発表することができました(Sato M, et al. PLoS Genet. 2022;18(7))。実験や論文執筆に加え，複数の学会，ラボセミナー，大学での研究発表会など，多くの発表の機会を頂き，勉強させていただきました。

【今後の展望について】

サイエンスの世界を知り，日々感じることは生命とはなんと神秘的で，真理を追究するべく向き合う世界がいかに果てしないものなのかということです。いかに小さな発見であっても，向き合っている生命現象がいかに緻密に制御され，謎が多いものかを感じさせ，生命が維持されることが奇跡のようなことなのだと痛感します。そして真理を追究するべく進む先には自分が見ているよりもはるかに広い世界が広がっており，その果てしない世界と向き合い続けることが研究というものなのではないか，そして自分が何よりも喜びとするものなのだと感じます。

学類卒業後は附属病院の研究医特別プログラムに進み，初期研修を行いつつ大学院へ進学いたします。今感じる研究への喜びを糧に，現在の研究内容をさらに発展させ，ゲノムワイドな解析やバイオインフォマティックスなど，これまで未経験の新しい解析手法も身につけていきたいと思っております。そして，より普遍的な，種を超えて保存されてきた生命現象の解明につなげていきたいと考えております。

【最後に】

医学類の課程と両立しつつ，研究を楽しみ，プロジェクトを進めることができておりますのは，ご指導くださいましたすべての方々のおかげと心から感謝しております。そして，大学から研究室演習，新医学専攻という研究にふれる機会を頂いたからこそ，中学生の遺伝子への小さな興味を現在抱いているサイエンスへの熱意へと育てることができたと思っております。今後も研究室演習を通して，より多くの医学類生が研究の面白さにふれることができるよう，心から祈っております。

ラボでの集合写真

低学年から参加する研究室演習の魅力

医学類２年　岡村　結

医学類２年の岡村 結と申します。この度はこのような機会をいただき，大変光栄に思います。私からは，解剖学・発生学研究室での骨格筋萎縮研究の活動と，低学年から参加する研究室演習の魅力についてご紹介させていただければと思います。

私が所属する高橋 智教授の解剖学・発生学研究室は，メンバーが30人を超える大変大きな研究室であり，分野ごとに複数のチームに分かれてマウスを用いた基礎研究を行なっております。その中でも私が所属する「きぼうグループ」は，宇宙で飼育したマウスの骨格筋のデータを用いて，新規筋萎縮制御遺伝子を同定し，筋萎縮の分子メカニズムを解明することを目的としています。無重力状態や宇宙放射線などの宇宙特有の影響をあえて実験系として捉え，そこで得られた知見を活かそうとする研究に興味をかき立てられ，研究室の門を叩きました。

普段の活動としては，平日の放課後や長期休みを利用して，免疫染色やウェスタンブロッティングなどの実験に参加させていただきながら，RNA シーケンスなどの解析を通して，バイオインフォマティクスの基礎を学ばせていただいております。

まず実験としては，マウスの下肢を解剖して骨格筋の凍結切片を作成し，それらを HE 染色や免疫染色といった染色方法を用いて染め，炎症の有無やどのようなタンパク質が発現しているかなどを組織学的に観察しています。同時に，サンプルから抽出した RNA やタンパク質を PCR やウェスタンブロッティングなどの方法を用いて，定量的に解析しています。研究室に通い始めた当初は，基礎研究に関する知識がほとんどなく，PCR の原理を学ぶような基本的なレベルから始めなければなりませんでした。実験手技も０からのスタートでしたので，２，３時間かけて実験を行なっても全く結果が出ないということも幾度となく経験しました。それでも何度も自分の手を動かして実験を行なっていく中で，実験やその結果を解釈するプロセスの面白さに気づけるようになったと感じています。

続いて解析としては，様々なソフトウェアを用いて，宇宙で飼育したマウスのヒラメ筋における RNA シーケンスデータから遺伝子発現に変動があった遺伝子を抽出し，新規筋萎縮制御遺伝子を探索しています。所属研究室では，2016年より国際宇宙ステーションにおけるマウス飼育ミッションに参加しております。宇宙空間での筋萎縮は老化の症状と似ていると言われており，宇宙ステーション内で人工重力をかけて飼育したマウスと，無重力状態でそのまま飼育したマウスを比較することで，従来の骨格筋萎縮研究における課題を克服し，筋萎縮そのものを純粋に評価することが可能になりました。これらの解析においても，まずは基礎的な部分から理解し，いざデータを解析してみては予想通りの結果が得られない，という試行錯誤の繰り返しでした。勉強半ばではありますが，ドライ研究とウェット研究の双方を学び，将来の研究活動に繋げられればと考えております。このような活動は，先生方や大学院の先輩方のお力添え無くしては実現し得なかったことであり，ご指導いただいた全ての方々に，この場をお借り

初代宇宙ミッション

して感謝申し上げます。低学年では，基礎的な知識が不十分なことは言うまでもありませんが，だからこそ，結果に捉われない純粋な好奇心をベースに，研究の面白さを知ることができたと感じています。恐れず飛び込んでみた先に，新たな出会いや見知らぬ世界が待ち受けていました。今後も研究活動に邁進していきたいと思うとともに，より多くの人が研究室演習というプログラムを通して，楽しみながら研究に取り組まれることを願っております。

研究室メンバーの集合写真

～おわりに～

いかがでしたでしょうか。前号に引き続き，忙しい学生生活と研究活動を両立させている学群生の方に寄稿していただきました。

今号ではついに，筑波大学附属病院の研究医特別プログラムに進学予定の学生を紹介することができました。研究分野でも一層の発展を目指す筑波大学医学類ですが，この研究医特別プログラムがますます拡大していくことを一学生としても願っております。

最後に，発行に際し快くご協力いただいた皆様に厚く感謝し申し上げます。

会報93号　学生企画担当　医学類５年　螺良美波

「６年間を振り返って」
～Ｍ６ 学生役員の一言～

医学群医学類６年の麻生拓茉と申します。
私は同学年の役員の中では裏方として動くことが多くありました。また，会報を担当させていただきましたが，周囲の協力もあり，満足のいく会報の学生企画の記事を完成させることができました。
６年間を終えてみて，桐医会役員になって本当に良かったと思っております。
ありがとうございました。

麻生　拓茉

この６年間色々なことがありましたが，全体的にのんびり過ごせて良かったです。
先生方や先輩，後輩，事務局の方々とお話ししたり，桐医会室で封入作業の仕事を手伝ったりしたことが懐かしく思い出されます。ありがとうございました。
４月から筑波大学附属病院で初期研修をする予定ですので，今後ともよろしくお願いいたします。

名倉　理紗

６年間お世話になりました。
軽い気持ちで入った桐医会学生役員でしたが，先輩方や同期に恵まれ楽しく活動できました。
また，ふらりと桐医会室に現れる私をいつも暖かく迎えてくださり，ありがとうございました。
桐医会の先生方や先輩方との交流で学んだことを生かして，春からの研修医生活をがんばります。

萩原　千尋

私は３年生の時，桐医会の学生役員となりました。桐医会を通し，多くの先生方や先輩方，後輩の皆さんと関わる機会に恵まれたこと，大変嬉しく思います。
一方で，新型コロナウイルスの流行もありましたが，私自身が学生役員として桐医会にそれほど貢献できなかったと考えており，申し訳なく思います。この点については，卒業後に桐医会へ何かしらの形で恩返しができればと考えております。
桐医会の先生方，事務局の皆様，学生役員の皆様には心から感謝申し上げると共に，桐医会の益々のご発展をお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

福元　崇人

６年間様々な方に大変お世話になりました。実習に部活にたくさんの先生方や同期，先輩，後輩に恵まれ，６年間が非常に充実していて一瞬のうちに過ぎていったように感じます。

初期研修でつくばを離れますが，戻ってきた際はまた遊んでもらえると嬉しいです。

学生生活の後半はコロナもあり制約も多々ある中でしたが，非常に充実した６年間でした。

本当にありがとうございました！！

宮本　和幸

６年間の大学生活は長いようであっという間でした。部活動や勉強，アルバイト，友人との交流など，様々なことに全力で取り組み，沢山の経験を積んで，充実した学生生活を送ることができました。

また，尊敬できる多くの同級生や先輩，後輩，先生方と出会い，常に刺激を受けて支えられながら，自分自身成長することができました。この素晴らしい出会いは一生の宝物です。これからも人との繋がりを大切にしながら日々精進していきたいと思います。

６年間ありがとうございました。

山田　佳奈

後列：左から　麻生，宮本，福元
前列：左から　名倉，萩原，山田

会員だより

「公衆衛生医師ノススメ」

皆様初めまして。13回生の金本真也です。この度，縁あって茨城県に戻り公衆衛生医師として働く事となりました。現在，茨城県ひたちなか保健所に技佐（課長に相当）として勤務しております。令和５年４月から保健所長として勤務する予定です（県の判断次第ですが…）。保健所勤務前は，関西の大学病院で小児心臓外科医として働いていましたが，激務に伴う負担が大きくなり転向を模索するようになりました。行政関係の仕事を探していたところ，茨城県の公衆衛生医師募集の広告が目に留まり，応募したところ採用していただけたという次第です。今回は紙面をお借りして，茨城県内における公衆衛生の現状を紹介させていただきます。

皆様もご存じの通り，茨城県は医師少数県です。令和２年度の医師総数は5838人，人口10万人当たりで203.6（全国46位）という状況です。ほとんどの医師は医療機関に在籍しており，行政機関に所属する医師はこの内29人，全体の0.5％に過ぎません。この29人は県庁や保健所等の行政機関で公衆衛生医師として勤務しています。

茨城県内には，９つの２次医療圏に各１か所，中核市である水戸市に１か所の合計10の保健所が設置されています。公衆衛生医師が不足する場合，一人の所長が複数の保健所兼務を余儀なくされますが，幸い現時点で兼務をしている所長はおりません。しかし65歳の定年を超えて勤務を続けている方もおり，公衆衛生医師の補充が喫緊の課題です。ちなみに筑波大学卒の所長は現在５人です。

保健所の業務は，感染症対策や難病対策，健康増進対策等の対人保健業務，食品衛生，生活・環境衛生等の対物保健業務，地域医療計画や災害対策，医療従事者免許等の企画・調整業務の３つに分類されます。保健所勤務の医師は所長一人の場合が多く，これらの業務を保健師，薬剤師，管理栄養士，獣医師等の多職種と共同で進めます。所内唯一の医療に関するエキスパートとして，持てる知識をフル活用する事が求められます。

公衆衛生医師は，医療と行政の橋渡し役として機能する事が求められます。行政側からみる医療の景色は病院側からとは全く異なるように感じます。行政側は，「医療の敷居は非常に高い」という印象を抱いているように見受けられます。保健所長の役割は，医療と行政間の垣根を取り払い，互いに円滑に協力し合える関係を構築する事ではないかと思います。臨床経験の豊富な公衆衛生医師は，医療現場を熟知している分，前述した役割を果たしやすくなるのではないかと考えています。

公衆衛生医師の勤務形態は on と off がはっきりしています。行政組織の福利厚生は充実しており，子育てと平行しての勤務も十分に可能です。公衆衛生医師専門医取得の道も開かれています。

公衆衛生に興味がある方，臨床からの第２のキャリアをお考えの方，茨城県で働いてみたいという方はぜひ一度ご検討いただければ幸いです。下記メールアドレスまで，お気軽にご相談下さい。

13回生　金本　真也
sh.kanemoto@pref.ibaraki.lg.jp
（lg はアルファベットのえる・じーです）

一般社団法人筑波大学医学同窓会桐医会　通常理事会議事録

［2022年度　第３回　通常理事会］

日　時：2022年９月27日（火）20時
　　Zoom による会議
＜出席者＞
理事：山口高史（議長），原　　晃，鴨田知博，海老原次男，湯沢賢治，堀　孝文，田中　誠，
　　鈴木英雄，齋藤　誠
監事：松村　明，中馬越清隆
◆協議事項
１．会計について
・請求書に同封するゆうちょ銀行の払込サービス改定の案内について協議し，決定した
・常陽銀行の同一支店への振込手数料改定に伴い，今後，他行も含めたネットバンキングの利用を検討することとなった
２．名誉会員からの依頼について
・開学から学系再編までをまとめるため，資料収集の協力依頼があったことが報告され，今後，桐医会でも筑波大学医学系の沿革を調べ，残してはどうかとの意見があった
・学系再編までの冊子が完成したら，会報で紹介してはどうかとの意見があった
◆報告事項
１．会報92号の発行について
２．会報93号の発行に向けた寄稿依頼について
３．桐医会名簿2022の発行について
４．会計について
５．来年度の海外臨床実習について
６．創基151年筑波大学50周年記念基金への協力について
７．名簿・会報の発送作業について
８．年会費の再請求について
９．旭川医科大学同窓会からの新設大学医学部同窓会サミット開催の報告について
10．退会者について
11．桐医会ホームページの更新について
12．会員からのご意見について

［第４回　通常理事会］

日　時：2022年11月29日（火）20時
　　Zoom による会議
＜出席者＞
理事：山口高史（議長），鴨田知博，海老原次男，川上　康，堀　孝文，鈴木英雄，齋藤　誠
監事：松村　明，中馬越清隆

◆協議事項

1．会報93号の発行に向けて

・表紙の写真について，確認し決定した

2．会報94号の発行に向けて

・最終講義の原稿依頼について

・Experts from Tsukuba の原稿依頼について

3．会計について

・来年度の CBT・OSCE にかかる経費の援助について，要望書を確認し承認された

・学生による新入生向け情報誌印刷代の援助依頼について，依頼文を確認し承認された

・ネットバンキングの利用について，協議し決定した

4．年会費の一括納入制度について，協議し，引き続き検討していくこととなった

5．第７回（2023年度）社員総会の日程について，決定した

◆報告事項

12. 桐医会名簿2022および会報92号の発行と年会費請求書の発送について

13. 会計について

14. 医師賠償責任保険の保険証券の取扱いについて

15. ニコスの集金代行を使った年会費請求業務について

16. 名誉会員からの依頼について

17. 創基151年筑波大学50周年記念基金への会員からの寄附について

18. 退会者について

19. 桐医会ホームページの更新について

［第５回　通常理事会］

日　時：2023年１月31日（火）20時

Zoom による会議

＜出席者＞

理事：山口高史（議長）、原　　晃、鴨田知博、海老原次男、湯沢賢治、堀　孝文、田中　誠、鈴木英雄、齋藤　誠

監事：松村　明、中馬越清隆

◆協議事項

1．会報93号の発行に向けて

・教授就任挨拶の掲載順について

・投稿のあった会員だよりについて原稿を確認し、掲載について承認された

2．会報94号の発行に向けて

・最終講義の原稿依頼について

3．会計について

・海外実習援助金の受け渡しについて

4．入会手続きと年会費の請求について

・入会届未提出の卒業生には「入会届ご提出のお願い」を送付することとなった

・コロナの影響で卒業式がなくなった回生への再案内について

5．未入会の2022年度卒業生への入会案内について
6．退会の手続きについて
7．「創基151年筑波大学開学50周年記念シンポジウムのご案内」の協力依頼について
・案内文書を確認し、協力について承認された
・案内文書を会報の紙面としてカラーで掲載することとなった
8．「卒業生アンケート」の協力依頼について
・資料一式を確認し、協力について承認された
・会報へのアンケート同封について、特約ゆうメールでの郵送の承認が得られた場合、次号会報に同封することとなった

◆報告事項
1．会報93号の発行に向けて
2．会報94号の発行に向けた原稿依頼について
3．会計について
4．来年度新入生への入会案内および年会費の請求について
5．医師賠償責任保険の契約更新手続きについて
6．ニコスの集金代行を使った年会費請求業務について
7．退会者について
8．訃報
9．桐医会ホームページの更新について

事務局より

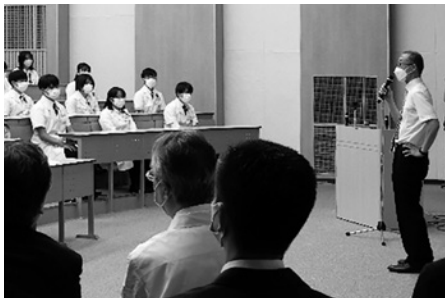
＜白衣授与式＞

2022 年 9 月 30 日（金），これから臨床実習を開始する 4 年次の学生の白衣授与式・宣誓式が行われ，桐医会から例年通り，学生が臨床実習で使用するネームホルダーを贈りました。

厳かに白衣が授与されました

代表の学生による
Clinical clerkship mission statement 宣誓

M4総コーディネーターの
乃村俊史先生よりお話



医学類長の武井陽介先生よりお話

集合写真

桐医会贈呈のネームホルダーに
Student Doctor 認定証を入れて
授与されました
写真は桐医会学生役員

第７回 桐医会　社員総会（代議員総会）のお知らせ

日　時：2023年５月27日（土）　16：00 ～

＊オンラインでの開催を予定しております

訃　　報

ご逝去の報が同窓会事務局に入りました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

正 会 員　　船越尚哉先生（４回生）（2022年７月２日ご逝去）

名簿のパスワードのお問い合わせについて

桐医会名簿（DVD）には個人情報の流出を避けるため，共通のパスワードでセキュリティをかけております。

大変恐縮ですが，お電話，登録の無いメールアドレスからのパスワードのお問い合わせにお答えすることはできません。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

住所変更等のご連絡について

ご勤務先，ご自宅住所等ご登録内容に変更がございましたら，会報に綴じ込みの葉書，またはメールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

E-mail: touikai@md.tsukuba.ac.jp

メールアドレスご登録のお願い

桐医会では，会員の皆様への緊急連絡のために名誉会員，正会員のメールアドレスを収集しております。まだご登録いただいていない方は下記の要領でお送りください。

また，メールアドレスが変更になった場合には，お手数でも再度ご登録いただきますよう，併せてお願いいたします。

宛　先　：　touikai@md.tsukuba.ac.jp

件　名　：　○○回生（または名誉・正会員）桐医会メールアドレス収集

本　文　：　回生（または名誉・正会員）, 名前 , 登録用アドレス

「会員だより」「会員メッセージ」原稿募集

桐医会では，会員の皆様から「会員だより」として原稿を募集いたしております。

全国規模の学会のPR，研究やご著書の紹介，近況報告など…，皆様からのたくさんのご投稿をお待ちしております。下記の要領で原稿をお寄せください。理事会で内容を確認させていただいた上で，今後会報に掲載を予定しております。多数のご投稿をお待ちしております。

記

タイトル：自由（学会のPR, 研究･著書の紹介, 同窓会報告, 近況, 趣味など）
文 字 数：1200字以内
写　　真：２枚まで
提 出 先：桐医会事務局宛　　E-mail：touikai@md.tsukuba.ac.jp

＊また，120字未満程度の「会員メッセージ」も募集いたしております。
巻末の葉書をご利用いただき，お気軽にご投稿ください。
＊会員の皆様から会報の表紙用写真を募集いたします。
お写真の説明を添えて，桐医会事務局までメールに添付でお送りください。
掲載につきましては，理事会で確認させていただき，ご連絡いたします。

桐医会ホームページについて

桐医会ではホームページを開設し，行事予定やお知らせなどを掲載いたしております。

また，桐医会会報の既刊号につきましても，1981年発行の創刊号より最新号まで全て閲覧することができますので，是非ご覧ください。

アドレス　：　http://touikai.com/

桐医会 Facebook について

桐医会では公式 Facebook を開設し，編集委員の学生が中心となって桐医会からのお知らせなどを掲載しております。

また，会員の皆様からのお便りも募集いたしております。

事務局より

桐医会事務局は医学系学系棟４階473室です。

事務局には月～金の９：00～16：00 原則的に事務員がおり，年会費の現金払いも受け付けております。

また，ご不要になった名簿は，桐医会事務局までお持ちくだされば，こちらで処分させていただきます。

会費納入のお願い

桐医会会員の皆様には，日頃より桐医会の活動にご理解とご支援をいただき，誠にありがとうございます。さて，2023年度の会費を下記のいずれかの方法で納入くださいますよう，お願い申し上げます。

支払方法	用紙	期限	手数料	備考
郵便局振込み	別送の振込用紙	なし	100円	
コンビニエンスストア振込み	別送の振込用紙	2023.6.10	100円	全国ほとんどのコンビニで利用可能
口座振替	同封の口座振替依頼書に必要事項をご記入・押印の上，返送してください	申込〆切 ～2023.6.10 引落し日 毎年7.27*1	100円	・ほとんどの金融機関は「NSトウイカイ」と印字*2
桐医会事務局での現金払い	別送の振込用紙	なし	なし	月～金の 9：00～16：00

・年会費は5,000円ですが，手数料など必要経費として一律100円をご負担していただいております。なお，滞納のある方は滞納分を含めた金額となっております。
・払込取扱票（振込用紙）がお手元に届きましたら，納入をお願いいたします。
・お手元に古い振込用紙をお持ちの方は，新しい振込用紙が届きましたら古い用紙は破棄していただき，必ず最新の用紙をご使用くださいますようお願いいたします。
・ゆうちょ銀行以外の金融機関やネット送金をご利用してお振込みいただく場合，送金人欄に会員様のお名前と払込取扱票の住所横に記載の５桁の数字を入力してください。

◆ゆうちょ銀行の払込サービス改定により，2022年１月17日より現金でのお支払いには払込人様に110円の料金が加算されることとなりました。

＊ゆうちょ銀行のお口座（通帳・カード・ネットバンキング）からのご送金には加算料金はかかりません

＊１　７月27日が土日祝日にあたる場合，引落しは翌営業日となります。
＊２　一部の金融機関では別の表記で印字される場合もございます。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
なお，ご不明な点は桐医会事務局までお問い合わせください。

一般社団法人筑波大学医学同窓会
桐医会 事務局
E-mail：touikai@md.tsukuba.ac.jp
Tel&Fax：029-853-7534

編集後記

会報93号はいかがでしたでしょうか。今年度の学生企画「研究室演習について」では，合計４人の医学類生に研究室の紹介をしていただくことができました。

卒業生のうち，毎年必ず研究者を志す者がいるというのは，筑波大学医学類のとてもいい文化だと思います。研究分野によりいっそう強い大学になるよう，願ってやみません。

最後に，発行に際し快くご協力いただいた皆様に厚く感謝申し上げます。

会報93号担当：河本万優子・螺良美波（Ｍ５）

筑波大学附属病院
University of Tsukuba Hospital

創基151年
筑波大学50周年記念
50TH ANNIVERSARY OF UNIVERSITY OF TSUKUBA

創基１５１年筑波大学開学５０周年記念　シンポジウムのご案内

謹啓　早春の候　ますます御清栄のこととお慶び申し上げます
平素より　筑波大学附属病院の発展に格別なる御高配を賜り厚く感謝申し上げます

筑波大学附属病院は　１９７６年（昭和５１年）１０月１日に開院し　現在　茨城県内唯一の特定機能病院として地域医療の中核的な役割を果たすとともに　総合大学の附属病院として最先端医学の研究成果を　最先端の医療へとつなげています

さて　ここで筑波大学についてご紹介させていただきます　筑波大学は　１８７２年（明治５年）に我が国初の「師範学校」として発足し　１９７３年（昭和４８年）に新構想大学として新たに出発し　本年２０２３年（令和５年）１０月をもって　創基１５１年及び開学５０周年を迎えることとなりました

このことを記念しまして　下記のとおり　本院においてシンポジウムを開催することといたしましたので　ご案内申し上げます

なお　同事業への出席を検討いただける場合には、下記の連絡先まで　連絡賜りますようよろしくお願い申し上げます

敬具

２０２３年（令和５年）３月吉日

筑波大学副学長・理事　附属病院長　原　　晃

記

＜創基１５１年筑波大学開学５０周年記念　シンポジウム＞
筑波大学附属病院のあゆみとこれから
日　　時：２０２３年（令和５年）９月２９日（金）１４：００～１６：００
場　　所：筑波大学附属病院桐の葉モール講堂１・２

問い合わせ先：筑波大学附属病院　病院総務部総務課
電　話：029-853-3519, 3513
メール：hsp. somuka@un. tsukuba. ac. jp

以上

卒業生フォローアップ調査ご協力のお願い

卒業生の皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

筑波大学医学群医学類（医学専門学群*）は、開学当初よりさまざまな分野で社会に貢献できる人材育成を教育目標として医学教育を行ってまいりました。その成果を確かめてカリキュラム改善に活かすために、卒業生の活動状況、卒業生のお立場から医学教育に対する意見を収集し、カリキュラム改善に活かすことが重要であると考えており、このたび卒業生フォローアップ調査を行うこととなりました。

アンケート用紙は別便にて近日中に郵送させていただきます。ご多忙中恐縮ではございますが、ぜひご協力をお願い申し上げます。なお、アンケートは下記の QR コードより Web にて回答していただくことも可能ですので、ご都合のよい方法でご協力いただければ幸いです。

調査結果はカリキュラム改善に利用させていただく予定です。結果は報告書、ホームページなどで公開されることがありますが、個人が特定されるような形での公表は行いません。いただいた情報について厳重に管理いたします。ご多忙中恐縮ではございますが、どうぞご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

QR コードから回答いただけます。
締切：2023 年 3 月 31 日

筑波大学 医学群長　田中 誠
医学類長　武井陽介

お問い合わせ　筑波大学医学群医学教育企画評価室（PCME）
〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel＆Fax 029-853-3002
E-mail curmang@md.tsukuba.ac.jp

*2007 年 4 月より筑波大学医学専門学群は医学群医学類に改組されています。

一般社団法人「桐医会」（筑波大学医学同窓会）入会のご案内

筑波大学医学同窓会「桐医会」は，2016年10月，一般社団法人となりました。今まで以上に筑波大学および附属病院に在籍する医師や教員の方々の親睦を図り，本校の発展に尽くすために，本校の卒業生のみならず，本校および附属病院に勤務する医師，教員の方々にも正会員としてご参加していただきたく，ご案内申し上げます。

一般社団法人筑波大学医学同窓会　桐医会
会長　　山口　高史

◆当会の趣旨をご理解いただき，桐医会へご入会を希望される方は，桐医会事務局（学系棟 473室）までお問い合わせください。
◆年会費は5,000円となっております。
◆桐医会名簿は会員のみにお配りしております。

桐医会事務局
（内線　7534）

不審電話にご注意ください！！

かねて名簿，会報において再三ご注意を促しておりますが，ご勤務先に電話をかけ，ご本人または同窓生の携帯電話の番号を聞き出そうとする不審電話にご注意くださいますようお願いいたします。手口がとても巧妙な為，携帯電話の番号を教えてしまった例も報告されています。

桐医会事務局または役員が直接先生方のご勤務先，ご自宅，ご実家へ電話をかけて，ご本人や同期生の連絡先等個人情報の確認をすることはございません。

なお，桐医会では先生方の携帯電話番号は原則的に管理いたしておりません。

いかなる場合も，個人情報等の問い合わせに対して即座にお答えにならない，折り返しの連絡先を確認する等，くれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。

桐医会事務局

筑波大学附属病院内
一般財団法人 桐仁会
Tel 029-858-0128
Fax 029-858-3351
e-mail: info@tohjinkai.jp
http://www.tohjinkai.jp/

桐仁会は，保健衛生及び医療に関する知識の普及を行うとともに，筑波大学附属病院の運営に関する協力，同病院の患者様に対する援助を行い，もって地域医療の振興と健全な社会福祉の発展向上に寄与することを目的として設立された法人です。

1．県民のための健康管理講座
2．筑波大学附属病院と茨城県医師会との連携事務
3．臨床医学研究等の奨励及び助成
4．研修医の教育研修奨励助成
5．病院間地域連携事業・安全管理事業への助成
6．附属病院の運営に関する協力
7．患者様に対する支援
8．教職員，患者様やお見舞い等外来者の方々のために，次の業務を行っております。

●売店（けやき棟12階売店）
飲食料品，日用品等

●一般食堂　●職員食堂

●オープンカフェタリーズコーヒー

●その他
床頭台，各種自動販売機，公衆電話，
コインランドリー，コインロッカー等

桐医会会報　第93号
発　行　日　2023年３月１日
発　行　者　山口　高史
編　　集　一般社団法人 筑波大学医学同窓会 桐医会
〒305-8575　茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学医学群内　桐医会事務局
Tel & Fax: 029-853-7534
E-mail: touikai@md.tsukuba.ac.jp
印刷・製本　株式会社　イ　セ　ブ

許可なく複写複製（コピー）は，禁止致します。